

的類似性と異質性を持っていることなどを考慮すると、21世紀初頭には「中・日・韓による北東地域の国際交流圏」を構想することも可能性であると筆者は考えている。そのためには、三国の国際観光振興協力体制を作ることが必要であり、これまで国別に行われていた観光宣伝活動を共同で行うことも考えられるし、地域内国際観光周遊ルートを開発して、観光目的地としての吸引力を強化する、などの方策も考えられよう。

しかし、それと同時に、下記のように、解決すべき課題も多い。

- (1) 全体の課題では観光市場調査による三国国民の観光ニーズの類似性と異質性の把握、それに基づく観光政策と計画の策定、観光交流の社会環境作りなどがあげられる。
- (2) 国別の課題では三国は他の政府同レベルの観光行政機関の設立、観光政策の見直し、観光交流における不均衡の是正などが必要で、社会環境と観光地の整備、受入体制の改善、旅行業務の規範化、観光サービスの改善と向上などが急務である。

山陰地域と中国東北部との民間経済文化交流の展望

盛山正義

(株)山陰経済経営研究所

はじめに

近年、日本海は冷戦構造の終焉等により「緊張の海」から「平和の海」へと大きく変貌をとげ環日本海交流圏の形成は、日本海沿岸地域によって太平洋沿岸地域との格差の是正、国土の均衡ある発展を図り、活力ある地域振興を図っていくためには不可欠である。

これらの交流圏は、豊富な天然資源、労働力、資本、技術等を有し、それらを相互に補完し合うことにより、人、物、情報の交流を積極的に進め、当地山陰は環日本海地域の西の交流拠点として、極めて高い発展のポテンシャルを有している。

- (1) 21世紀のキーワード「参加」と「連携」である。

国際交流を推進するに当たって

- 県民意識の育成いわゆる県民の連携と県民総参加が求められる。
- 国際交流に当たって特殊な人材の確保と、異文化に対するの広報活動。
- 地方自治体の中に交流対象となる地域を研究する研究機関の設立。

(対象地域の知識をもつ人材のプールを作ること。)

- 真の国際交流を進めるには、自分の世界、自分のアイデンティティをはっきりと確立することが必要。

どのような歴史、文化圏、社会なのか「地元学」を深めることが肝要。

等々地域振興を一層進めるに当り、地域住民の総参加と地域連携が求められよう。

- (2) 21世紀に向けての新たな全総計画は、国土の均衡ある発展を指向する日本海沿岸地域を結ぶ日本海国土軸、日本海と太平洋両沿岸を結ぶ地域連携軸は、両軸とも循環型をベースに人、物、情報の交流を基本とし、経済、生活、文化、歴史、情報の交流軸を目指すものである。
- (3) 日本海国土軸の形成は日本海沿岸地域の都市形成、地域連携を一層すすめ、引いては海の軸、空の軸形成により対岸諸国との地域補完を図り、局地経済圏の形成のみにとどまらず共通の文化、歴史の共有認識により北東アジアの経済、文化の交流が一層進められるものとする。
- (4) 経済面での交流の必要性について述べて来たが、人類学的に共通の歴史を持ち、相互理解を図るうえで、他地域に比較すれば、文化、生活、習慣、歴史を理解するうえで容易である。
- (5) 21世紀を目指した具体的な民間経済文化交流。
 - ①人の交流は文化の交流を意味し、教育、芸能、歴史、等々の交流を図る。
 - ②物の交流は、経済の交流を意味し、貿易、資本、技術の交流を図る。
 - ③情報の交流は、時間、距離の短縮を図る観点からインターネット、パソコン通信等の活用により一層の情報のネットワーク化を構築し、環日本海地域間のコミュニケーションを促進する。
- (6) 山陰地域の民間経済文化交流（具体例）
 - ①民間企業の中国東北部企業との合弁企業設立。
 - ②当地山陰と中国東北部との貿易促進を図るための貿易商社の設立。
 - ③地元銀行行員の吉林大学留学（2年間）。
 - ④山陰合同銀行丸頭取の吉林大学名誉顧問就任、ならびに同大学東北亜研究院盛山兼任教授就任。
 - ⑤山陰合同銀行大連事務所のオープン。
 - ⑥山陰地区企業の研修生の受け入れと技術者の派遣。
 - ⑦国公立大学の中国東北部の大学との友好協定の検討と留学の受け入れ。

以上環日本海地域の人、物、情報のネットワーク化を進めることにより両対岸地域活性化を図り、北東アジアの一大経済文化圏を構築することが可能であろう。